****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 140 号
−環境・農業・食べ物など情報の交流誌−
2004.08.19（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_index.htm
**********発行部数　1604　部**********

□　目　次　　□----------

＜今週の提言＞多様性に逆行した「合併」に未来はあるか　渡辺　博
＜旬を食べる―野良からの便り・７＞“ミョウガ（夏ばて解消）”　小泉浩郎
＜山崎農業研究所情報＞
◇山崎記念農業賞・記念フォーラム（2004 年７月３日）講演要旨（速報）
―国民の森林づくり：その目的と技法を問う―
【その３】鋸谷式新間伐法の革新性
　　大内　正伸（イラストレーター、未来樹 2001 代表）
＜79 歳の意見＞
『父と暮せば』・ヒロシマ原爆から生まれた喜劇映画　原田　勉
＜日本たまご事情＞タマゴが無くなる？　愛鶏園・齋藤富士雄
＜編集後記・同人の近況報告＞７月 29 日ー８月 18 日

＜今週の提言＞多様性に逆行した「合併」に未来はあるか

最近の研究によると、弥生時代はインデカ系とジャポニカ系のイネが混植されていたらしい。混植は、土壌水分を均平にするために干害に強く、植物に寄生する害虫やウイルスの種類が多様化することで互いに繁殖を抑制するので病虫害にも強くなるらしい。混植は生物多様性を活かした栽培技術のひとつである。

多様性に逆行する動きとして、最近、プロ野球団や銀行のように、やたら合併が流行っている。その最たるものが市町村の平成の大合併であろう。合併によってスケールメリットが活かせる場面もあるだろう。しかし、合併は無個性化を促すものであり、多様性の対極に位置するものではないかと思えてならない。

フランスの市町村数は 36,000 を数え、1 自治体あたりの人口は 1,600 人にすぎない。効率第一主義のアメリカでさえ市町村の数は 36,000 を超える。日本の 10 倍ほどの数である。この他に、学校区単位や教育委員会単位などからなる特別自治体が 48,000 強あり、どの市町村にも属さない特別自治体は、それ自体が市町村と同じ役割を果たしている。

アメリカの自治体は住民が作ることになっているから、住民のアクションがないところでは自治体が無い。人口の 4 割弱は無自治体に住んでおり、郡当局の直轄に置かれている。しかし、住民が行動を起こし住民投票によって簡単に自治体を作ることができる。自治体の半数は人口 1000 人以下であるという。アメリカやフランスの自治体は極めて個性的で、より地域主義的である。

地域主義といえば、最近、バスケットボールの新潟と埼玉のチームが日本リーグを脱退し、仙台、東京、大阪等のクラブチームと一緒に新しいプロリーグをつくるというニュースがあった。企業に依存した従来のシステムから脱却し、地域に根ざしたクラブチームの育成を図ることが第一の目的だという。サッカーの J リーグも現在 28 チームがあるが、近い将来 36 チームまで拡大するらしく、実際に様々な地域から加盟希望が出されている。企業経営的発想のプロ野球の動きは全く逆の動きである。

合併の根底には効率性の向上がある。本当にそうであろうか。多様性を犠牲にした合併は、いずれは組織を弱体化、形骸化させ、効率性どころか崩壊への道にひたすら走り続けるのではないだろうか。農業や生態系がこのことを教えているといっては言いすぎだろうか。

渡辺　博
山崎農業研究所会員　太陽コンサルタンツ（株）
y.noken@taiyo-c.co.jp

＜旬を食べる―野良からの便り・７＞“ミョウガ（夏ばて解消）”

暑い夏は、やはりミョウガだ。独特の香りと歯ざわりは、夏ばての身体をキリッとさせる。縦に刻んでさっと水にさらし、かつお節と醤油で食べるのが好きだ。食欲のない時の素麺、つゆに浮かした刻みミョウガもまた格別。味噌汁、

てんぷらもよい。

　だが、子供の頃、あまり食べると物忘れがおおくなる、勉強が出来なくなると脅された。あの刺激が脳を刺激し麻痺させるのか。それでも食卓に上ったから結構食べた。還暦を過ぎての物忘れのひどさは、その後遺症かもしれない。

　この物忘れの素といわれるミョウガは、地下茎から顔を出す花穂である。地上６ー７cm 程で淡い黄色の神秘な花をつける。花は１日でしぼむ。収穫適期はつぼみのうちがよい。

　ミョウガは、14ー15cm 伸びた若い茎も食べる。ミョウガダケと呼んでいる。味噌汁の具がよい。根元が白く次第に紅を帯びたみずみずしさが特徴だ。

　ミョウガは宿根性で秋地上部は枯れる。その枯れた地上部で独楽回しの紐を綯った。母親から細長い布の切れ端をもらい紐の中に加えた。簡単なようだが、独楽にあわせるコツが必要、やはりガギ大将は、ここでも指導者だった。

　ミョウガは、日本人しか食べない香味野菜だそうだ。したがって、これだけは輸入のない日本原産だけ信じたいのだが……。

小泉　浩郎
山崎農業研究所事務局長
y.noken@taiyo-c.co.jp

＜山崎農業研究所情報＞

◇山崎記念農業賞・記念フォーラム（2004 年７月３日）講演要旨（速報）
―国民の森林づくり：その目的と技法を問う―
【その３】鋸谷式新間伐法の革新性

大内　正伸（イラストレーター、未来樹 2001 代表）

　1999 年に森林に関するシンポジウムに参加したときに鋸谷さんにはじめて会った。その時、この間伐法の話をじかに聞くことができた。間伐に適した形状比（木の太さと高さの比）があることも知った。そこで自分が東京で開いているイベントに鋸谷さんを招き、話をしてもらった。奥多摩の森林を説明しても

らい、釣り竿を利用した樹木密度の測定方法など、多くのことを教えてもらった。

　このようなことがきっかけとなって新間伐法のマニュアル本にイラストを入れることになった。これらのことを自分のホームページで流した。群馬県の鬼石町の人工林を持っている人から人工林を切って広葉樹林にしたいとのことでメールを受けた。現地に行ってみると間伐遅れの山であった。ここはかつて森林組合で間伐をやったとのことであるが、従来法での間伐であるので密植に近い状態になっていた。そこで、せっかくの人工林を伐る代わりに新しい方法で間伐をしてはどうかということになった。この場所で新間伐法のイベントを開いた。多くの人が参加した。この話をある雑誌の編集長が興味を持ち、この新間伐法を連載することになった。このようなことがきっかけとなって間伐のイベントは今も続いている。

　森林は間伐しないと「緑の砂漠」となる。これは外見は緑であるが、林地内は真っ暗で下草も生えない砂漠の状態になることである。下草がないから降った雨は土を浸食して山全体を壊す。今までの林地は経済効率第一に畑のように考えられていた。そのための間伐法であり、広葉樹などの混ざるのを嫌った。しかしこれが混ざることが大切であり「山は畑ではない」ということを意識した、自然の植生に近い多様性が必要である。新しい育林法がこの鋸谷式新間伐法である。

　鋸谷式人工林の管理の特徴をまとめると次のようになる。
(1)釣り竿を用いた釣り竿管理法と称し４ｍの釣り竿を回してこの中に含まれる木の数と直径、樹高を測定することで林地の特性を把握し、間伐の方法などを決める。
(2)「巻き枯し」間伐を体系化した。
(3)見栄えよりも機能重視とし、林内の生物の多様性に注目した。木を切り倒していくことで野生シカなどの侵入を防ぐ。植生をもって植生を制御する。
(4)下草、広葉樹がよく育ち、茂る。日本の気候風土を生かした育林方法がみごとに生かされている。
（文責：安富）

＜79 歳の意見＞『父と暮せば』・ヒロシマ原爆から生まれた喜劇映画

１９９４年こまつ座で初演された井上ひさしの戯曲は、「笑いと涙と、戦後日本の最高の喜劇」（作家・丸谷才一）と絶賛された。その『父と暮せば』が映画化され（主演・宮沢りえ、原田芳雄、浅野忠信、監督・黒木和雄）岩波ホールでロードショーを続けている。

物語りは、原爆投下から３年後の広島が舞台。
図書館勤めの美津江（宮沢りえ）は、自分だけが生き残った負い目に苦しみながら、ひっそりと暮らしている。そこへ原爆の資料集めにきた木下青年（浅野忠信）に好意を示され美津江も一目で彼に魅せられていく。
しかし「うちは幸せになってはいけんのじゃ」と恋心を押さえためらう。そこへ父・竹造（原田芳雄）が幽霊になって「恋の応援団長」を名乗り、なだめすかして、美津江の心を開かせ、幸せになるようにする。
その親子のやりとりが、美津江の「自分をいましめる娘」と、亡くなった者たちの代表として父が「娘の幸せを願う」という形を対立させるドラマとなって展開する。これは美津江の中の二つの心の現れでもある。

私は、８月６日の広島原爆忌に参加できないので、せめてこの映画を見て、原爆ヒロシマの悲劇を繰り返さないように誓うことにした。前もって戯曲も読み、神田神保町の岩波ホールで８月３日に映画を見た。
映画は芝居と違って８月６日の広島の閃光・被爆を再現し、映画の特徴を生かして回想を折込み見事に描いていた。二人のやりとりを描きながらも、あたたかい笑いがあり、広島弁の父と娘の会話に心がなごみ、何度も涙が止まらなかった。そして、我ながら長生きして良かったと大きな感動をおぼえた。

この「一人二役」という手法と「見えない自分が他人の形となって見える」という幻術も、劇場の機知の代表として、二つ重ねたところが井上ひさしの劇作の工夫の成果といえる。
そして、井上の「最悪の状況下でも、人間は常に未来をみている」という思いを映像に描きあげた黒木和雄監督の優秀作品になった。

映画「父と暮せば」オフィシャルホームページ
http://www.pal-ep.com/chichitokuraseba/chichitokuraseba-top.htm
＊全国の上映館情報もあります。

岩波ホールサイトにも作品紹介・混雑状況・当日割引券などあります。
http://www.iwanami-hall.com/

●上映期間● 2004 年 7 月 31 日（土）より 12 月下旬まで

------★岩波ホールサイトの注記(8/6 現在)----------
「「父と暮せば」は連日大変混雑しております。
当館は各回完全入れ替え制、定員制をとっておりますので、途中入場はできません。また、満席の場合はそれ以上のご入場ができません。恐れ入りますが、混雑状況をお電話でお確かめの上、ご来場くださいませ。
ホームページではおおよその目安のみをご案内しております。 」

とのことです。

原作　井上ひさし著『父と暮せば』新潮社刊　1998 年　1260 円
http://esbooks.yahoo.co.jp/books/detail?accd=30406596
http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4103023260/
新潮文庫版　2001 年　340 円
http://esbooks.yahoo.co.jp/books/detail?accd=30775724
http://www.amazon.co.jp/exec/obidos/ASIN/4101168288/

山崎農業研究所会員・『電子耕』編集同人
原田　勉
http://nazuna.com/tom/

＜日本たまご事情＞タマゴが無くなる？

養鶏場にとって鶏卵の生産コスト割れが続いてから久しい。もう一年半以上になるだろう。通常のエッグサイクルの低卵価に加えて、鳥インフルエンザの風評被害が重なりとんでもない低卵価となった。ながく鶏卵の仕事に携わってきた人たちにとっても予想外の連続であった。

ある意味では鶏卵業界は長期間とても安定していた。毎年の鶏卵生産量、採卵鶏用配合飼料流通量、初生雛販売量など、いずれを取って見ても、一年間で括ってみれば前年対比わずか数％の変動であった。しかしこの数％の変動が卵価には拾数％以上大きく影響してきたのも事実である。

日本の採卵養鶏、鶏卵関係の統計資料が官民から毎月発表されている。その

中で最も重要視してよいのが品目別配合飼料流通量のデータであろう。これは日本の特殊事情もあって、世界中で一番正確なものであるし、日本の畜産関係の統計のなかでも一番信頼のおけるものである。

最近、採卵養鶏関係でこの数字に異変が起きた。永年にわたって前年比数%の変化が、ここにきて−１０％台の変化になってきた。つまり鶏卵の生産現場において未だかつてない大減産が起きていることを意味している。

鶏卵生産量のわずか数%の増減で卵価の大変動を来たした経験から言えば、１０％の減産は「タマゴが無くなる」騒ぎになってしまい、価格は暴騰せざるをえない。消費者の皆さん方には、今まで安い値段でタマゴを買っていたぶん、今度はその分高く支払ってもらわざるをえない。

辛抱してこの低卵価に耐えた生産者には、生産コスト割れで作った赤字を十分補う卵価になることは間違いない。そうでなければ日本中の生産者がいなくなってしまい、それこそ本当にタマゴが無くなってしまう。

齋藤　富士雄
（株）愛鶏園
http://www.ikn.co.jp

＜編集後記・同人の近況報告＞（７月 29 日ー８月 18 日）

先日、友人たちとのパーティーの際、“自分でつくった料理を持ち寄ろう”ということになった。わたしがつくって持ち込んだのは、茄子の油味噌。適当に切った茄子を油で炒め、実の水分が出てきたら味噌・砂糖をからめて味付けする、きわめて簡単な料理だ。わたしにとっての夏のお袋の味でもある。油にひきたてられた茄子の旨味と、からめられた味噌・砂糖の甘辛さが食欲をそそる。ご飯のおかずに抜群であるし、甘さをおさえれば酒のつまみにもよい。友人たちのうけも悪くなかった（と思う）。息子たちにも試食させてみた。最初は“なにこれ？”といった感じであったが、実際に口にすると、「美味しい」と。まあこれはおせじかもしれないが、おふくろの味ならぬ親父の味も悪くないだろうと、自分の都合のよいように解釈してみたりした。
（山崎農業研究所会員・田口　均）

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

１、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
２、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
３、１回１テーマ、10 行位に。
４、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
５、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

◎投稿アドレス変更のお知らせ

電子耕への投稿アドレスは、発行人の変更に伴い、
y.noken@taiyo-c.co.jp
となっております。投稿される方はこちらのアドレスにお願いします。

次回　141 号の締め切りは８月 30 日、発行は９月２日の予定です。
　最後まで読んで頂き有り難うございました。今後もよろしくお願い致します。

★『メールマガジンの楽しみ方』発売中

書名：岩波アクティブ新書 45『メールマガジンの楽しみ方』
著者：原田　勉　定価：735 円　発行日：2002 年 10 月 4 日
発行所：岩波書店　ISBN4-00-700045-X
まえがき・目次・著者紹介・注文方法はこちら
http://nazuna.com/tom/book.html

『電子耕』から大切なお知らせ
http://nazuna.com/tom/denshico.html
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag.html
＜本誌記事の無断転載を禁じます＞

****

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 140 号
バックナンバー・購読申し込み／解除案内
http://nazuna.com/tom/denshico.html
http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_mailmag2.html
2004.08.19（木）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
mailto:y.noken@taiyo-c.co.jp

**********ここまで『電子耕』**********